

### 卓球・全日本学生選抜選手権

# 女子シングルスで 劉は惜しくも3位

(商2・日南学園高)が、男子シングルスに王凱(商2・新潟産大附高)が出場し、劉が3位となった。

予選リーグを圧倒的な強さで突破した劉。決勝トーナメントでも準決勝まで1セットも落とすことなく安定した試合運びで駒を進めたが、準決勝で淑徳大の楊に敗戦。気持ちを切り替えて臨んだ3位決定戦では早大の中島にフルセットの末4-3で勝利した。

試合後、「昨年優勝した大会というのを意識しすぎて、自分のプレーがうまくできなかった」と悔しさを募らせた。しかし「次の試合に向けて練習で成長したい」と今後の活躍を誓った。(村上 大晃・文2)



▲ 切れのある攻撃を見せた澤田

澤田は「ウオームアップ

### レスリング・全日本大学選手権

# フリー 澤田が3位入賞

## 84kg級 全日本選手権出場決める

11月10、11の両日、東京・文京スポーツセンターで全日本大学レスリング選手権が行われ、フリー84kg級で澤田に勝ち進む。準決勝では日本大の松本を相手に粘り強く試合を進めていくも、ポイントが取れず敗戦。3位決定戦では積極的な攻撃で、相手を0ポイントに抑え、快勝した。

11月19日から25日まで、代々木第二体育館で全日本大学バスケットボール選手権が行われ、男子は6位となり、1月1日から行われる全日本総合選手権の出場権を獲得した。

### バスケット・全日本大学選手権

# 男子「全日本総合」出場へ

11月10、11の両日、両国技館で全日本学生相撲選手権が行われた。個人戦には5選手が出場。南の、3回戦で今大会優勝の日体大・中村と対戦。粘りを見せたが惜しくも敗れた。「けがのため久しぶりの実戦だったが、吹っ切れて試合に臨めたのが良い結果につながった」と話した。

東日本学生秋季新人選手権(文1・小諸高)が3位に入賞した。優勝を目指したフリーとグレコローマン84kg級 栗田が3位

9月29日から11月24日までダイドードリンコアイスアリーナほかで、関東大学アイスホッケーリーグ戦が行われた。ディビジョンIグループBに

### アイスホッケー・関東大学リーグ戦



▲ シュートを放つ齋藤司(法3・東北高)

所属する専大は無敗で優勝。12月1日に行われたディビジョンIグループAの日体大(グループ8位)との入れ替え戦にも4-1で勝利し、グループAへの復帰が決定した。今季の特徴は守備力の高さにある。1試合平均2失点の堅守を支えたのはGK・戸津寛太(法2・長野工高)の存在だ。

### アイスホッケー・関東大学リーグ戦

# グループAに復帰

## 袖山主将が最優秀選手賞

で、来季はこの守備が通用するかどうか勝利の分かれ目になる。袖山佑介主将(法4・軽井沢高)は「本当はうれしい。戦術を駆使し、毎試合全員で挑んだことが結果につながった」と語った。個人では最優秀選手賞・最多ポイント賞をFW・袖山主将が受賞。ベスト6賞をGK・戸津、D・F・武田直道(法1・北海高)・高木飛翔(法2・東北高)、FW・齋藤陸(商4・北海高)・井部修久(法2・白樺学園高)の5人が受賞した。(西浦 佑・ネット情報 1)写真も

### フェンシング・全日本学生選手権

# 男子エペ団体で2位

## 男子サーブレ 団体が共に4位

全日本学生フェンシング選手権が11月7日から11日まで、京都府大山崎町体育館で行われ、専大は男子エペ団体が2位、男子サーブレ団体と女子フルレ団体



がともに4位となった。男子エペ団体はトナメ(左)はトナメ上ント初戦で京井大を破ると、したその後も順調に勝ち進み、決勝へと駒を進めた。決勝は関東学生選



11月10、11の両日、両国技館で全日本学生相撲選手権が行われた。個人戦には5選手が出場。南の、3回戦で今大会優勝の日体大・中村と対戦。粘りを見せたが惜しくも敗れた。「けがのため久しぶりの実戦だったが、吹っ切れて試合に臨めたのが良い結果につながった」と話した。

### 相撲・全国学生選手権

# 南が個人戦ベスト8

## 「全日本」出場権を獲得

11月1日から19日まで、関東学生バドミントン新人選手権が所沢市民体育館ほかで行われた。女子ダブルスで浦谷夏末(商2・尚志高)・篠田(商2・富岡高)組



▲ 宇都直輝(経営2)のシュート(撮影・西浦)

宇都直輝(経営2)のシュート(撮影・西浦)

女子は西南女大(九州1位)との初戦に勝利したが、東海1位の愛知学泉大との対戦では力の差を見せつけられ敗戦。ベスト8進出はならなかった。

### 体操・15大学対抗歓楽大会

# 植月が2連覇

11月11日、横浜国立大学体育館で霜月杯15大学対抗体操競技歓楽大会が行われ、男子個人総合で植月悠麻(商2・洛南高)が昨年に続き、優勝を果たした。

浦谷・篠田組が準々決勝で対戦したのは法政大の今野・樋口組。今季は1勝1敗と互角の成績で、浦谷は「絶対に勝たなかった。お互いの持ち味をしっかりと出せたことが勝ちにつながり、自信にもなった」と話し、篠田も「今季で一番印象に残る試合」と振り返った。福永は「準備できて

11月15日(代々木第一体育館)



- ◇アイスホッケー部
- ◇スピードスケート部
- ▽日本学生氷上競技選手権
- 1月6〜9日(栃木県日光霧降スケートセンターほか)
- ◇卓球部
- ▽全日本選手権
- 1月15〜20日(代々木第一体育館)